

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2013年11月)

発表日2014年1月14日(火)

～経常赤字が過去最大。季節調整値でも3ヶ月連続の赤字に～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2012	7月	6,625	3,602	▲ 7,558	▲ 4,936	▲ 2,622	12,106
	8月	4,448	6,559	▲ 4,984	▲ 2,590	▲ 2,394	12,400
	9月	5,137	▲ 402	▲ 11,951	▲ 8,980	▲ 2,971	12,368
	10月	4,208	5,010	▲ 6,403	▲ 4,498	▲ 1,905	12,144
	11月	▲ 1,796	3,633	▲ 7,179	▲ 5,092	▲ 2,087	11,744
	12月	▲ 2,307	2,152	▲ 8,537	▲ 6,331	▲ 2,206	11,983
2013	1月	▲ 3,484	4,356	▲ 7,805	▲ 6,062	▲ 1,743	11,923
	2月	6,497	▲ 207	▲ 13,100	▲ 11,465	▲ 1,635	13,573
	3月	12,831	3,672	▲ 9,100	▲ 7,704	▲ 1,396	13,555
	4月	7,844	8,976	▲ 8,984	▲ 8,023	▲ 961	18,964
	5月	5,666	6,464	▲ 4,789	▲ 4,776	▲ 13	12,462
	6月	3,777	6,930	▲ 6,545	▲ 5,751	▲ 794	14,343
	7月	6,004	3,652	▲ 10,222	▲ 9,315	▲ 907	14,779
	8月	1,571	3,437	▲ 7,550	▲ 5,832	▲ 1,718	11,684
	9月	5,948	▲ 1,198	▲ 15,008	▲ 13,619	▲ 1,389	14,738
	10月	▲ 1,279	▲ 593	▲ 12,748	▲ 10,982	▲ 1,767	13,154
	11月	▲ 5,928	▲ 466	▲ 11,727	▲ 10,079	▲ 1,649	12,840

(出所)財務省「国際収支統計」

## ○経常収支（季節調整値）は3ヶ月連続の赤字。貿易赤字が高止まり

11月の経常収支（原数値）は5,928億円の赤字（コンセンサス：3,697億円の赤字、レンジ：▲5,980～▲1600億円）と、統計が比較可能な1985年以降で最大の赤字額となった。季節調整値でも、466億円の赤字（10月：593億円の赤字）と、3ヶ月連続の赤字となっている。高水準の貿易赤字による経常収支への押し下げ圧力が継続している。

内訳をみると、貿易収支（季節調整値）が9、10月に引き続き大幅な赤字となった（10月：10,982億円赤字→11月：10,079億円赤字）。輸出金額は緩やかに改善傾向で推移している（11月：前月比+2.3%）ものの、輸入金額が高止まりしている（11月：同+0.6%）ことで、1兆円を超える高水準の赤字が継続している。足元の実質輸出は、7－9月期に低迷したASEAN向けの持ち直しや中国向けの緩やかな増加を主因に増加傾向での推移となっている。一方、輸出も燃料輸入の高止まりや堅調な内需に伴って増加基調が続いている。

## ○所得収支黒字は引き続き高水準で推移

貿易外収支（季節調整値）の動きをみると、所得収支は12,840億円の黒字（10月：13,154億円黒字）と黒字幅が小幅縮小した。2ヶ月連続の黒字額縮小となったが、後述するように所得収支の黒字は緩やかな拡大局面にあるとみて良いだろう。

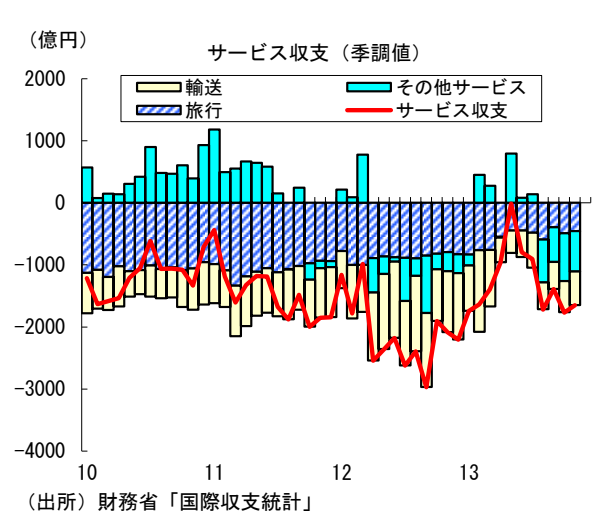
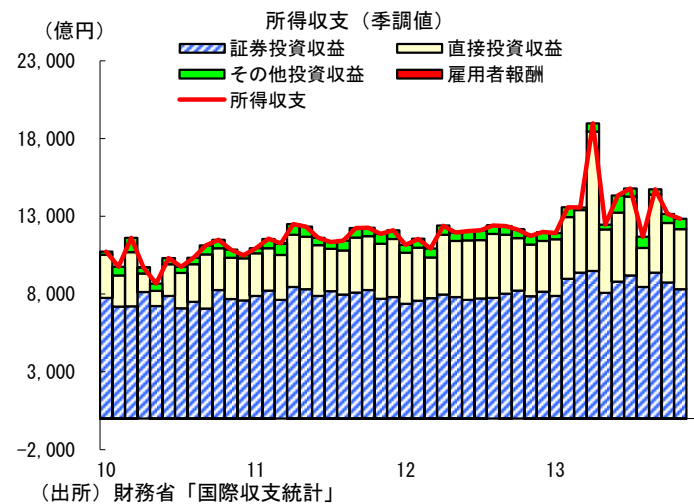
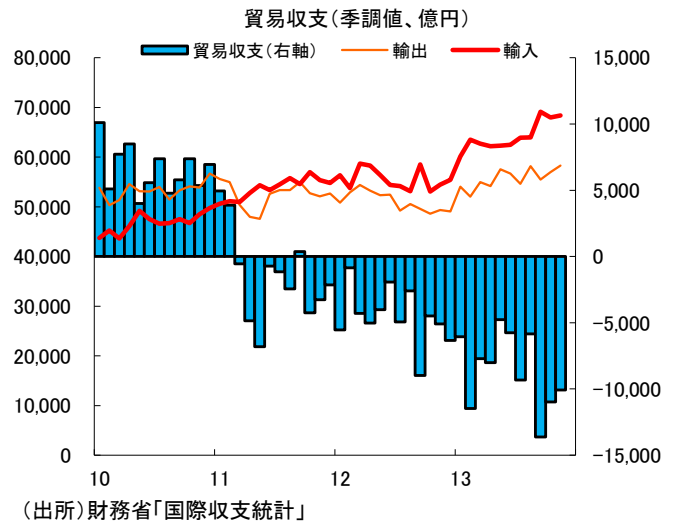
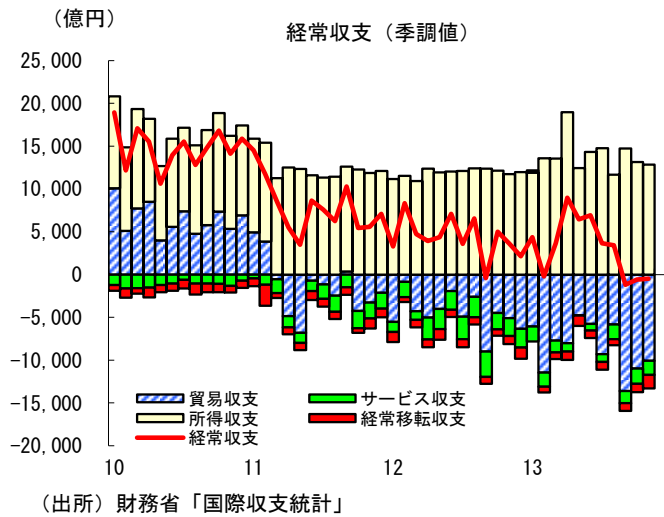
所得収支の内訳をみると、直接投資収益（10月：3,829億円黒字→11月：3,865億円黒字）が小幅拡大、証

券投資収益（10月：8,748億円→11月：8,311億円）は縮小となっている。先行きに関しては、直接投資収益は①海外経済の緩やかな回復、②対外直接投資の増加、を背景に拡大傾向で推移するだろう。証券投資収益に関しても、対外純資産の増加や緩やかな円安などを背景に増加基調での推移が見込まれる。

サービス収支は、1,649億円の赤字（10月：1,767億円赤字）となった。前半は輸送収支や旅行収支の赤字縮小などを背景に赤字幅が縮小傾向で推移していたものの、足元では拡大傾向への推移に転じている。輸送収支の改善一服やその他サービス収支が赤字額を拡大させていることが原因だ。項目別に原数値をみると、仲介貿易の対外支払などが前年比増加となっており、こうした動きがサービス収支赤字の縮小一服に繋がっているようだ。

### ○当面、経常収支の目立った改善は見込みづらい

先行きを展望すると、消費税率引き上げ前の駆け込み需要を背景に、輸入の増勢が強まる可能性が高い。輸出も緩やかな増加基調にはあるものの貿易赤字は高水準で推移するものと予想され、当面、経常収支の目立った改善は見込みづらい。もっとも、その後は海外経済の改善を背景とした輸出の増加や所得収支の黒字拡大、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動によって輸入の増勢が弱まることなどが予想される。こうした要因から2014年度以降、経常収支は緩やかな黒字拡大へ向かうものとみている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。